

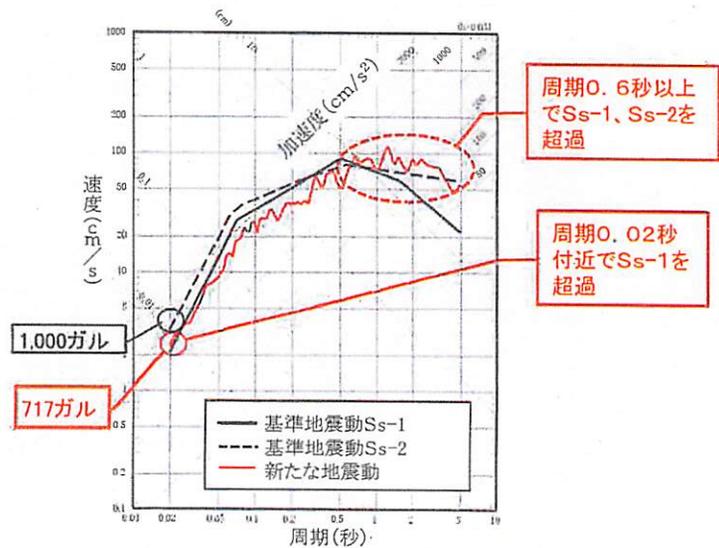
- 女川原子力発電所2号機の新規制基準適合性審査申請においては、2011年東北地方太平洋沖地震等での知見を踏まえ、耐震設計の基準となる地震動(基準地震動)について「 $Ss-1$ (640ガル)」および「 $Ss-2$ (1,000ガル)」を設定し、現在、原子力規制委員会の審査においてその妥当性が審議されているところです。
- このたび、これまでの審査会合におけるコメント等を踏まえ、より厳しい条件で地震動の追加評価を行なったところ、新たな地震動(717ガル)が得られました。この地震動は、基準地震動 $Ss-1$ および $Ss-2$ を一部の周期帯で上回るものです。
- なお、今回の追加評価による発電所の設備への影響はないものと考えておりますが、今後、詳細な評価を実施することとしております。

【地震動の評価】

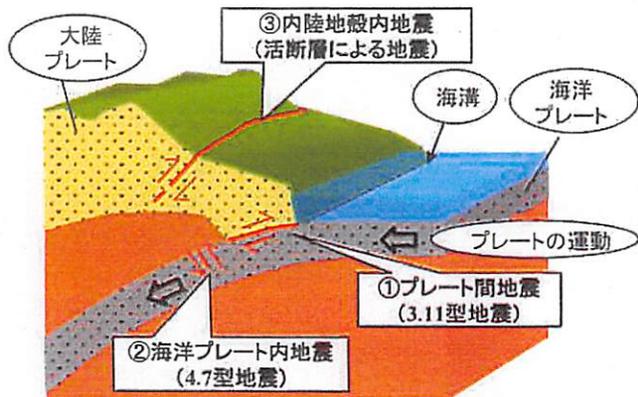
		適合性審査申請時の評価		追加検討の状況(審査中)	
震源を特定して策定する地震動 (地震の発生様式[↓参考1参照])	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震)を考慮	基準地震動 $Ss-1$ 640ガル	左記地震について断層モデルによる評価を実施 [⇒参考2参照]	基準地震動 $Ss-1$ 640ガル 新たな地震動 717ガル
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震)を考慮	基準地震動 $Ss-2$ 1,000ガル	左記地震について詳細評価中	基準地震動 $Ss-2$ 1,000ガル
	③内陸地殻内地震	F-6断層～F-9断層による地震を考慮		左記地震および仙台湾の断層群による地震を考慮	
震源を特定せず策定する地震動	敷地における地盤物性を考慮	—	—	—	—

※ 表中の加速度は、すべて水平方向の加速度

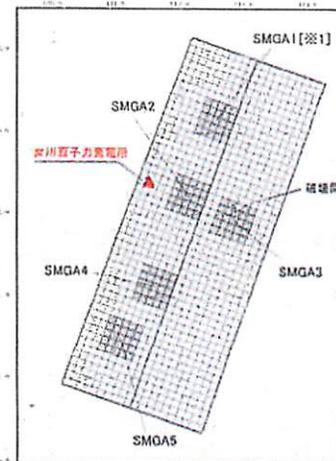
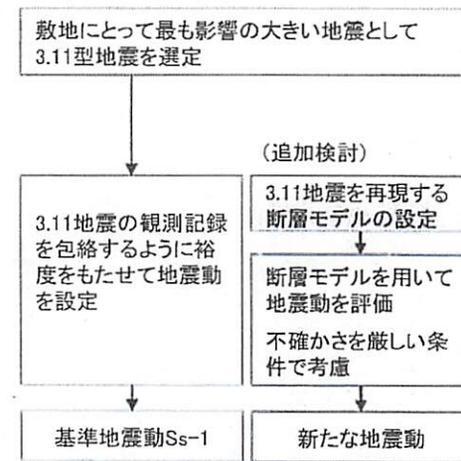
【地震動応答スペクトル(水平方向)】



【参考1】 地震の発生様式イメージ



【参考2】 断層モデルによるプレート間地震の追加検討



- 【概要】
- ・申請時は、3.11地震の観測記録を包絡するように裕度をもたせて地震動を設定
⇒基準地震動 $Ss-1$
 - ・今回の追加検討では、3.11地震の揺れを再現する断層モデル(左図)を用いて地震動を評価
 - ・その上で、応力降下量[※2]の不確かさを厳しい条件で考慮
※1 SMGA(強震動生成域) プレート境界や断層面において、特に強く固着している領域
※2 応力降下量 地震時の断層面のずれにより、解放されるエネルギーの量

A
第61号新